

文化・芸術

「もんしる蝶」

1953年、油彩、カンバス
41・0センチ×53・0センチ（寄託作品）

オノサト・トシノブ

（1912～86年）

桐生を拠点に新しい絵画を追い求めたオノサト・トシノブ。本作は、戦後日本の前衛表現の実験の場として草分けとなったタケミヤ画廊で、1953年5月に開催した初個展の出品作と伝わります。

モンシロチョウの羽を外光に透かして見つめることもあったでしょうか。小さな生命の運動は、どこか土の匂いさえ感じさせます。力強くも素朴な美が表出しました。

この初個展ではほかに、「しづく」「雑草」「山の石」「かみなり」といったタイトルの全17点が出品されましたが、現在それらの同定には至っていません。以後、円を無限に展開していくオノサト芸術の源泉をみる貴重な一点といえます（小此木）

〈名画の扉〉

大川美術館コレクションから

